

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 若園小学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	4年2学級、71人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (○「総合的な学習の時間」) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ スポーツ文化についての体験を通して自己の生き方について考えることができるようにする。 ・ パラリンピックの種目「パラ・パワーリフティング」について知るとともに、パラスポーツの意義について考えることができる。 ・ パラリンピック大会のPR動画の視聴やパラスポーツ選手とオンラインで交流する活動、さらに実際に体験する活動を通して、障がい者スポーツへの理解を深め、共生社会に向けた取組や工夫について考えることができる。
5 取組内容	【事前指導】 ○ 年間を通して、総合的な学習の時間「SDGsを学ぼう」の学習に取り組んでいる。本単元では、そのなかの「共生社会編」として、パラリンピックや共生社会について、学習を深めていくこととした。 ○ 東京2020パラリンピック大会について知る。 ・ パラリンピックの意義やパラリンピックのついて知っていることを話し合う。 ・ パラリンピック大会のPR動画の視聴を通して、パラリンピック大会の様子やパラスポーツの魅力に気づき、障がい者と共生する社会について興味関心をもつ。  【あすチャレ ジュニアアカデミー】 日時 令和3年11月1日(月) 10:50~11:35 対象 4年生児童 71名 [教室]

	<p>○ パラリンピアンとのオンライン交流を通して、パラリンピックや選手としての思いを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パラ・パワーリフティング日本記録保持者の山本恵理さんとオンラインで、障がい者スポーツ競技の魅力や共に生きていくことの大切さを感じ取った。 <p>【事後指導】</p> <p>○ パラリンピック競技には、車いすに乗る競技がたくさんあることに気付く。さまざまな障がいがあり、障がいに応じたルールや機材や施設がある。</p> <p>→施設の工夫、「おもてなし」の心。</p> <p>○ 昨年度、実践したパラスポーツ「ボッチャ」を体験し、パラスポーツの楽しさやルールに様々な工夫がされていることに気付く。</p>	
<p>6 主な成果</p>	<p>○ パラリンピック大会のPR動画を視聴することで、パラリンピックの種目や、競技について理解を深めることができた。</p> <p>○ 実際にパラ・パワーリフティングの選手とオンラインで繋がり、話を聴くことで、障がい者スポーツ競技の魅力や障害がある人と共に生きることへの思いをもつことができた。</p>	
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ 総合的な学習の時間「SDGs を学ぼう～共生社会編」に位置付け、学習に取り組んだ。</p> <p>○ アreasをはじめ、多くの障がい者支援施設と連携して、指導員を招聘したりや機器を集めたりして、車いす体験や点字打ちの体験、視覚障がいの体験等、数多くの体験をさせる場を設けたことで、共感的な理解を図ることができた。</p> <p>○ 「あすチャレ」(あすへチャレンジ)プログラムを活用することにより、実際の障がい者スポーツ競技選手と交流をすることができた。</p> <p>○ 学校通信を通して、「あすチャレ」(あすへのチャレンジ)プログラムの様子や本校のオリパラ教育についての取組を保護者や地域の方に発信した。</p>	<p>パラリンピックの意義と魅力について啓発</p> <p>学校通信に掲載し、取組を発信</p> 
<p>8 主な課題等</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響で、当初計画していたアスリート講師をお招きして交流することはできなかった。</p> <p>そのため、ボッチャの楽しさは体験することができたが、競技者の苦労や悩みをご本人から直接生で聞いて考えたり、パラスポーツとしての価値を実感したりするまでは至らなかった。</p>	
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 当該の4年生だけでなく、いろいろな学年にボッチャをはじめ、パラスポーツ種目や競技の魅力や楽しさを発信していく。</p> <p>○ 来年度以降は、ボッチャ競技に限らず、パラリンピックアスリートやそれを支える方をお招きして、その競技の素晴らしさを実感したり、競技に関わる苦労や工夫をお聞きしたりすることで、パラスポーツへの関心をさらに高めるとともに、パラスポーツに対する理解や認識を深めていくようにしたい。</p>	